

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標

「地域を守る人づくり」を目指し、学校・保護者・地域各種団体の連携をより一層促し、子どもたちの体験、交流の取組を充実する。**【今年度の取組紹介】**

地域教育協議会がスタートして10年を経過しました。一貫して学校園の環境整備事業に力を注いできました。地域に声かけ、教職員、保護者、子どもたちと共に、夏には「草刈り作業」冬には「落ち葉清掃」を毎年開催しました。事業スタート当初は子どもたちの清掃作業は慣れない様子でしたが、年々手際がよくなり、小中学生が協力しながら頑張っており、きれいにする姿が見えました。

また環境整備事業では多くの方にボランティアの登録いただき、環境ボランティアグループとして熱心に活動しています。毎週2～3日、樹木の剪定、草刈り、校庭内の設備の補修、園庭での畑の農作物の育成など多岐にわたる支援活動を継続的に行っています。

神功小学校の校庭にはボランティアさんが材料を吟味した手作りの「防災かまど」が設置されました。「放課後子ども教室」で育てたサツマイモの焼き芋大会を行い、みんなで美味しくいただきました。

**【今年度のまとめ】**

中学校区を1つのまとまりとして事業に取り組む事を大切に考え、行事・支援活動を企画しました。しかしながら熱中症対策により「学びフェス」が開催中止となったことは残念です。

地域全体を巻き込み、学校・家庭・地域がお互いの役割や機能を十分に理解し、連携・協働していく仕組みをつくる役割を協議会の活動が担うことを願います。

ボランティアのそれぞれの活動が年間を通じて定期的、継続的に行われ、学校支援の輪は保たれています。しかし支援者の高齢化と地域全体への事業の周知はいまだ途半ばと思われ、広報の工夫はコーディネーター活動の課題です。

【来年度に向けて】

- ・取組全体を振り返り、活動の見直し、組織・運営方法を見直します。
- ・伝わる広報活動を心掛け、事業の理解を深め、活動への参加者を募ります。
- ・子どもたちが自ら動けるエネルギーを引き出すための企画を立ち上げたいです。
- ・広い視野を持って、中学校区で取り組む活動をスタートします。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける 心豊かなたくましい子

取組目標

防災体験学習やゲストティーチャー招聘などの事業を通し、地域の多くの方々との出会いやつながりをもつことによって、学校が地域の課題(防災)への取組の場となり、子どもたちの心や夢を育む豊かな学びの場となるようにする。

【今年度の取組紹介】

今年も中学校を中心とした地域の防災活動、人と人との絆を大切に地域との交流を深める取組をポイントとして活動を行いました。

◆学びフェス 2018(熱中症対策のため中止)

消防署や消防団ほか、様々な団体の協力を得て行ってきた「学びフェス(「防災フェス」より改称)」は、今年度は熱中症対策のため残念ながら急遽中止となりました。



<2017年度の様子>

◆救急救命講習

平城西中学校区地域教育協議会では、幼稚園・小学校からの連続した学びとして「防災」教育に取り組んでいます。その一環として、中学校では地元の奈良市北消防署のご協力のもと「助けられる側から助ける側に！」を合い言葉に、1～2年生で心肺蘇生法やAEDの使用法などを中心とした「普通救命講習」を受講し、3年生ではもう一度復習の講習を受講しています。災害時のみならず家族や仲間の命を万が一の時に助けられるよう準備をしています。



◆地域一斉清掃

12月15日(土)中学校周辺の一斉清掃を、地域の方々と共に取り組みました。150名を超える参加があり、中学校・神功小学校・神功こども園周辺の落ち葉清掃・溝掃除に汗を流しました。「ご苦労様」と声を掛けて頂き、生徒たちは地域の一員であることを実感していました。

【今年度のまとめ】

地域ボランティアのみなさんによる日々の環境整備活動・図書室支援活動において、中学校では地域の方々との交流がごく自然な当たり前の風景となっており、生徒は地域の人々とふれあい、見守られていることを理解し、安心して学校生活を送ることができています。また「校区一斉清掃」においては、貴重な体験を通して防災や地域環境への意識が高まると同時に、普段は学校と直接かかわることがない地域の方々と接することで、地域住民としての自覚も芽生えています。

【来年度に向けて】

地域における中学生の存在が、防災活動でも重要になってきています。これまで行ってきた「防災フェス」の中身も含め、取組のより一層の充実と改善を図り、「頼られる存在」としての自覚をもたせたいと考えています。また来年度は学習面においても地域の協力を得るなど、ボランティアの皆さんと一緒に活動する機会を増やしていくことによって、さらに地域の一員であるとの意識と同時に感謝の気持ちをもたせられるようにしていきたいと考えています。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける**心豊かなたくましい子**

取組目標

地域への意識を高め、地域活動に積極的に参加する児童を育てる。

【今年度の取組紹介】

○地域・親子合同清掃（9月8日）

2学期が始まって間もない土曜日、朝から小雨の降るあいにくの天気の中、保護者・地域の方・本校教職員など、150名ほどが右京小学校の運動場に集まってくださいました。年々児童数が減少し、夏が過ぎると運動場が草一面になります。今回も集まっていた方で草引きを中心に清掃活動を行っていただきました。おかげさまで運動場の草はなくなり、安全に安心して運動会の練習に取り組むことができ、運動会も大成功をおさめることができました。また運動会当日は、清掃活動に来ていただいた地域の方も多数参加してくださり、子どもたちに声援を送ってくださっていました。



○右京地区防災訓練（10月14日）



異常気象等による災害が各地で発生しており、「自分の命を守るため（自助）、家族や隣近所の方々を守るため（共助）」地域での防災訓練に参加して万一の災害発生時に備える目的で実施されました。6年生が防災訓練ポスターを描き、掲示でアピールしてくれたおかげで、保護者・地域の方・本校教職員と多数の参加がありました。煙避難訓練、救急救命訓練、炊き出し訓練など、様々な体験活動を通して防災意識を高めることができました。

【今年度のまとめ】

- プール学習に、地域の方と共に7年連続で外部機関から講師を招聘したことは、児童の泳力向上に成果がありました。泳げることに自信をもち、意欲的に授業を受ける児童が増えました。
- 消防署の協力も得て、各学年で系統的に取り組んでいる防災学習や地域の防災訓練への児童の積極的な参加等を通じて、防災や地域の一員であることの意識をより一層高めることができました。
- 環境ボランティアの活動や万年青年クラブの学習支援、右京おはなしの会の活動は学校力を高める大きな一助となっています。

【来年度に向けて】

- 今年度のテーマ・目標・事業を継承し、さらに地域・家庭・学校のつながりを深める取組を進めていきます。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標

地域と共に心を耕し、夢を育む神功の子 ~学びの場をともに豊かに！~**【今年度の取組紹介】****●落ち葉拾い**

12月15日、平城西中校区清掃活動として、落ち葉拾いを行いました。この季節になると学校内外が大量の落ち葉であふれます。学校のクリーンタイムで児童が校内と赤道の落ち葉清掃をしていましたが、なかなか追いつきません。地域、保護者、社会体育の関係者、平城西中学校の生徒のご協力ですっかり落ち葉がなくなりました。

**●福祉・高齢者疑似体験**

10月19日3・4時間目に、4年生福祉・高齢者疑似体験が行われました。神功地区社会福祉協議会と奈良市社会福祉協議会にご協力いただき、11名のゲストティーチャーに教えていただきました。車いす体験は学校の周りの赤道や運動場、校舎内を車いすに「乗る」「押す」を交代しながら体験しました。ちょっとした段差があるとたちまち押せなくなり、前へ進めません。学校は段差だらけで大変でした。バリアフリーはとても大切なことだと改めて実感しました。

**【今年度のまとめ】**

ゲストティーチャー招聘事業の中で出会った沢山の地域やボランティアの方々から、子どもたちは豊かな体験や知識を学ぶことができました。そして、自分たちのくらす地域や奈良を愛し、大切に思う心も受け継ぐきっかけになりました。

このような取組を通して、子どもたちの中には、地域の見守り活動をして下さる方々に、あいさつする姿が増えてきています。

【来年度に向けて】

防災体験学習事業を継続する中で、子どもたちに「自助」の力をつけつつ、地域の中での「共助」へと高めていけるように取組を継続・発展させていきたいと考えています。

児童通学見守り事業については、今年度初めて学校、PTA 及び地域の関係者が集まり意見を交換しました。今後も年1回のペースで意見交換会を実施する方向です。

来年度から始まる取組については、順調に運営できるか不安ですが、大学生ボランティアを募集しながら進めていきたいです。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、**自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標

ふれあい・つなごう・笑顔の輪

【今年度の取組紹介】

今年度は、園庭の一部を改造し、子どもたちの新しい遊び場になるように「遊び場作り事業」を行いました。

子どもたちが遊んでいる横で地域の方が、作業されているため、毎日様子を見ることができました。作業に使われる道具は、子どもたちにとって目新しいものも多く「何しているんだろう」と興味を持って見たり同じようにスコップを持って手伝ったりする姿も見られました。

またステージ作りでは、その興味を子どもの遊びにつなげるため、子どもの目に見えるところに作業の場を構成しました。基地作りをして遊んでいた5歳児は、地域の方と話をする中でノコギリの使い方教えてもらったりして、自分たちの遊びに活かす姿が見られました。



【今年度のまとめ】

毎日、地域の方が作業している姿を見て、挨拶をしたり子どもから声をかけたりするようになり、地域の方に親しみを感じるようになりました。また、園に来ていただく機会が増えることで、園児や保育の様子を見ていただくことになり、園の教育を知っていただく機会になりました。

園児の保育時間は長くなる傾向にあり、家庭や地域での経験が少なくなっています。いろいろな道具を扱う大人の姿を見ることは、園児の興味を高め、遊びへの意欲につながったと考えられます。

【来年度に向けて】

継続した取組も多いが、計画時には、何をねらうのか、職員間で共通理解して実施していかなければならないと考えています。また、行事が多くなり遊びが継続できないこともあったため、子どもの遊びと事業の連続性を考慮し、実施時期を考えていきたいです。